

## 第6回板橋区緑の基本計画改定委員会

### 議事録

日時	令和8年1月29日（木）13：30～16：00
会場	板橋区役所本庁舎北館11階 第二委員会室
出席者	【委員】池邊委員、萩野委員、佐藤委員、山口委員、大塚委員、篠原委員、春日委員、関委員、西山委員、宮津委員、雨谷委員、内池委員、田島委員、林委員 【欠席】高田委員、水村委員 【技監】波多野 【事務局】板橋区みどりと公園課（河島、町田、佐藤、高野、米山） 【受託者】株式会社創建（寺嶋、吉田）
次第	1. 開会 2. 議題 いたばしグリーンプラン2035（原案）
資料	<事前配布資料> ・資料1 いたばしグリーンプラン2035（原案）概要版 ・資料2 いたばしグリーンプラン2035（原案）本編【第6章～第8章】 ・参考資料1 いたばしグリーンプラン2035（原案）本編【第1章～第5章】 ・参考資料2 いたばしグリーンプラン2035（素案）に対するパブリックコメントと区の考え方 ・参考資料3 計画素案からの修正・変更・追加点 ・参考資料4 第5回板橋区緑の基本計画改定委員会での指摘事項とその回答  <当日配布資料> ・参考資料5 第5回板橋区緑の基本計画改定委員会議事録

※委員からのご意見・ご質問およびその回答のみを記載している。

#### 次第2. 議題

##### いたばしグリーンプラン2035（原案）第1章～第5章について

- 委員 掲載されている写真すべてに撮影場所等の説明がほしい。
- ⇒事務局 写真は56ページのように事業イメージとして載せているところも多く、イメージ写真については説明をつけていない。また、129ページのように具体的な事業を示す写真には、説明を記載している。
- ⇒委員 例えば、80ページ「竹林の整備活動」の写真として、日光市の写真が記載されているものの、竹の子公園の写真の方が良い。竹の子公園の写真に差し替えないとしても説明に日光市の文言がなく、不親切に感じる。
- ⇒委員長 イメージ写真であるにしても、81ページの写真の説明「新たな担い手の創出のイメージ」のように記載できるのではないか。
- ⇒事務局 計画全体を見て、イメージ写真のみで伝わらないと思われるものには場所などの説明を記載する。

## いたばしグリーンプラン2035（原案）第6章について

- 委員 121 ページ、公園の整備等にあたって、市民ニーズを把握するためのワークショップ等の実施に関する記述はあるか。
- ⇒事務局 134 ページには事業として「アンケートのAIを用いた解析による改修検討（公園遊具の改修整備）」を設けており、ワークショップや小学校の児童からの意見や絵をAI解析したうえで、意見集約して公園の改修・整備に反映する予定である。
- ⇒委員 この事業名だと、アンケートのみでワークショップ等の意見交換の場がないと判断されかねない。アンケートだけではなく、共に考えるプロセスとして、ワークショップ等が必要ではないか。
- ⇒事務局 公園の改修にあたってはワークショップを開き、地域の意見を聞いて進めていることがわかるよう、116 ページのリード文などで「ニーズを把握し公園整備に反映する」旨の追記を検討する。
- ⇒委員 120 ページのリード文の1つ目に「整備においては～利用者の視点に立って進めることで～」とある。「利用者の視点に」の前に「ワークショップの開催等により」といった言葉を加えてはどうか。
- 委員 122 ページの事業として、「ビオトープの保全・活用」とある。保全と活用にあたってのサポート体制に関する記述があると良い。維持管理にあたっては、学校のみ任せず、地域連携などの仕組みを考える必要がある。
- ⇒委員 80 ページのように地域連携の好例として、コラムに活動団体を記載するなどしてはどうか。
- ⇒委員 114 ページのとおり、令和8年度より事業として「ビオトープネットワークの推進」を開始する。その際、地域などとの連携方法を考え、途切れない人のネットワークづくりを考えていきたい。
- ⇒委員 ボランティアのみ任せではなく、区として予算を取って、その上で地域や専門家と連携していく仕組みがつけると良い。
- 委員 ビオトープは、蚊などの害虫の発生源になる懸念がある。区が主体として進めていくにあたって、どのように考えているか。
- ⇒事務局 現状、区で直接管理しているビオトープはなく、具体的なイメージを持っていない。事業を進めていく中で、こうした課題や解決策を共有することができる地域との連携は重要なものであると考える。
- ⇒委員 122 ページ掲載の緑小学校のみならず、ビオトープのある小学校では直面している課題であると思われるため、教育委員会として実態を把握したい。
- ⇒委員 例として、エコポリスセンターのビオトープにおける蚊の発生状況についてお聞きした

い。

- ⇒委員 エコポリスセンターのビオトープでは、蚊は発生していない。
- ⇒委員 ビオトープはその大きさが小さいことで水が腐りやすくなり、蚊が大量発生しやすい。ビオトープを安易な考えで整備する風潮は良くない。
- ⇒委員長 蚊の大量発生は困るものの、虫がある程度いることにより、生態系を保つことができるということを学校教育で伝えていくべきである。
- 委員 学校にビオトープや緑のカーテンがありながら、活用されていないところがある。単純に設置数だけではなく、教育カリキュラムへの活用などの質的な指標が必要ではないか。
- ⇒委員 エコポリスセンター職員による授業実施数や、ビオトープ保全活動団体数を参考として記載することはできるのではないか。
- ⇒委員 エコポリスセンターで実施している緑のカーテンの育成講習会の実施数を把握することはできるため、情報提供は可能である。
- ⇒委員長 エコポリスセンターで把握している数を記載するのではなく、エコポリスセンターが実際に講習を実施していることを記載したうえで、実績数を参考値として記載すると良い。
- 委員 114ページの施策10「エコロジカルネットワークの形成」とあわせて、人のネットワークの形成も重要である。対面で問題を共有して課題を解決するためのネットワーク体制づくりとしていくことが読み取れる文章があると良い。
- ⇒事務局 126ページにあるように公園や緑地における協働の取組による人のネットワーク形成を、計画の柱と捉えて進めていきたい。
- ⇒委員長 126ページのリード文の「受入体制」は、行政主導の表現になっているため、受入体制の仕組みづくりについて記載してほしい。
- 委員 区内には校庭の芝生化後、維持管理のための地域連携が進んでいる学校がある。整備後の管理体制を検討しないままに整備されてしまっている現状にあることから、議論の場を含めた管理体制の重要性についての記述が欲しい。
- ⇒委員長 校庭の芝生化の実施を施策の事業として入れてほしい。
- ⇒事務局 維持管理の課題が大きいことから、校庭の芝生化導入を事業として数値目標に含めることを考えていない。
- ⇒委員 122ページの事業に新規で校庭の芝生化を進めることができなくとも、今ある校庭の芝生を守る、人工芝にするなど校庭の維持管理が確実にされていることがわかる目標設定をしていくと良い。また、人のネットワークについて、施策22のリード文に「新しく参加する方を増やす協働の仕組みをつくる」といった文章を加筆してはどうか。
- ⇒委員長 校庭の芝生化は良い取り組みであるため、その維持管理を担う人々が評価されるよう、計画に事業として盛り込んでほしい。

- 委員 114ページの「エコロジカルネットワークの形成」のためのネイチャーポジティブ実現に向け、「創出」という言葉があると良い。  
また、生物多様性が高まる緑地創出のためのガイドラインが欲しい。
- ⇒委員 114ページのリード文の一つ目「住みよしみどりのネットワーク形成を行います。」を「住みよしみどりとみどりをつなぐ空間を創出し、みどりのネットワークを形成します。」としてはどうか。また、活動団体による緑地創出をつなげることでネットワークを形成するように書き込んでいくと良い。
- ⇒委員 次期環境基本計画は、生物多様性地域戦略と統合し、計画の柱の一つとして生物多様性を挙げている。現状、ガイドラインはないものの、ネイチャーポジティブの実現に向けた指標をもとに具体的取り組みを進める。
- ⇒委員 ガイドラインの作成を今後検討してほしい。
- 委員 125ページには「公園における花火の利用」の写真がある。学校によっては、地域ボランティア等が協力して1年に1度、学校の校庭で実施している事例もある。現在の進捗を教えてほしい。
- ⇒事務局 現在は一部の公園でイベントとして実施している段階である。令和8年度以降、まずは見守りをつけない形で公園での花火の個人利用の制限緩和を目指す。見守りなしでの実施が難しいとなれば、町会など地域の人と相談して人員配置などを進めていく。
- 委員 126ページ「みんなのやりたいを実現させる仕組みづくり」について、みんなのやりたいは様々であることから、ツリークライミングの写真一つでは不足している。イメージ写真を増やしてほしい。
- ⇒事務局 ふさわしい写真があれば提供願いたい。
- ⇒委員 提供する。
- 委員 全体的に事業の目標として掲げているイベント参加人数等の目標数値が、令和10年度まで横ばいの設定になっているものの、少しでも増やす目標にすべきではないか。横ばいとしている理由は何か。
- ⇒事務局 会場の収容可能人数や天候を踏まえつつ、目標数値を増やせる事業については設定を見直したい。しかし、みどりの保全については、これ以上増やすことは難しいことから、維持を掲げている。
- ⇒事務局 学識経験者から意見をいただき、目標の上限に可能な限り近づけた数値に修正したい。
- 委員 校庭が芝生や人工芝となっている学校では花火が実施できないため、公園で子どもが安全に花火を実施できるようルールを設けてほしい。

イベントの実施場所に偏りがあるため、自然とふれあえる場所の多さや地域バランスなどを考慮して実施してほしい。

⇒事務局 花火の実施ルールおよび実施場所の公園を検討している。みどりとふれあえて自由に遊べる場所として板橋公園をリニューアルするとともに、板橋公園や赤塚植物園のような各地域の拠点となる公園において整備を進めていきたい。

○委員 樹冠被覆率の拡大について、参考資料2にはパブリックコメントでの意見に対する区の考え方として4項目にある。区の回答では、「樹冠被覆率による評価を含め、研究して参ります。」とあるため、事業として研究会を立ち上げ、開催回数を数値目標に設定できないか。

⇒事務局 117ページの施策13「みどりの回遊性の向上」の事業として、「樹冠被覆率拡大のための手法検討」を盛り込んでいる。樹冠拡大の方法について、区職員および事業者から意見をもらうために推進会議などを設け、令和10年度の本格実施を目指す。

⇒委員 117ページのリード文2つ目の文末に「適切な維持管理に向け取り組み、みどりの質を高めます。」とある。「みどりの質」の前に、「樹冠被覆率の向上を図るなど、」を記載してはどうか。

○委員長 施策29の「EBPM」は専門用語であるため、省略せずに表記してほしい。

⇒事務局 修正する。

○委員 125ページの事業として「ルール検討のための実証実験」とある。行政のみでルールを決定するのではなく、実際に利用者と話し合っけて検討できる会議やニーズを受け止める仕組みづくりが必要ではないか。

⇒事務局 行政が一方向的にルールを決めることはしない。アンケートを実施し、公園での希望する遊び方をはじめ、区民のニーズを把握する。

⇒委員 アンケートではなく、委員全員で各委員の意見を共有し調整し合える協議会のような対面での議論の場が欲しい。

⇒事務局 125ページのリード文に区民自らが公園を管理するからこそ、柔軟な使い方ができるという旨の記載を学識経験者からの助言を踏まえて盛り込みたい。

⇒事務局 公園の維持管理において、新たな担い手の確保が課題である。子育て世代をはじめとした、これまで敬遠していた人が参加できる仕組みを考えていきたい。

⇒委員 125ページのリード文を2項目とし、運営協力会など表現を用いつつ、区民でルールを決めて公園を運営していく旨の記載ができると良い。

⇒委員 区民と一緒に取り組むことがわかる表現であれば良い。

⇒委員 みんなのやりたいを実現させる仕組みづくりを進める上で、ルールが必要であるというつながりの方が自然であることから、施策21と22の順番は逆にした方が良いのでは

ないか。

⇒事務局 施策2-1と施策2-2の記載順番を入れ替える。

○委員 129ページのリード文3つ目「この活動を通して、子どもをはじめとした居場所づくりを進めます。」とある。対象が子どもというのはざっくりしていることと、居場所づくりで文章を終えるのではなく、活動を通して、サードプレイスが創出されること、多世代と交流できることなど、区民のライフスタイルの向上につながるということが記載されると良い。

⇒委員長 読んでいて活動したくなる印象を与えられる文章にしてほしい。

⇒委員 129ページのリード文3つ目を、「みどりに関する活動を通して、アクティビティの創出やコミュニティづくり等を行い、ウェルビーイングの向上をめざします。」といった記載に変更してはどうか。

⇒委員 みどりを楽しむことが伝わるような文章になれば良い。

### **いたばしグリーンプラン2035（原案）第7章、第8章について**

○委員 137ページの事業評価指標について、目標に向けて進んではいないものの、達成には至っていない事業は多いと思う。努力や進捗が見えるような工夫をしてほしい。

⇒事務局 評価とあわせて、矢印を用いるなど前回からの変化の傾向がわかるような表現の記載を検討する。

⇒委員長 事業が進んでいるが評価されないのは良くない表現を組み合わせで記載してほしい。

○委員 129ページの写真が、子ども向けアンケート調査で「参加したい」と答えたイベントと合致したものになっていない。子どもが実際にやりたいと答えた割合の多い「野菜を育てて食べる」に関連した収穫体験などの写真を入れるべきではないか。

⇒事務局 区民のニーズに沿った写真の掲載を検討する。

○委員 子どものみどりへの関心を育てる野菜づくりなどの土に触れる機会を学校教育のなかで増やしてほしい。

⇒委員 作物を育てる体験を行う学校が増えてきている。土地の制約はあるものの、教育委員会としても、子どもが作物を育てて食べるなかで培われる探求心に注目し、今後もそうした体験を実施する小学校が増えてほしいと考える。

⇒事務局 学校教育以外にも、赤塚植物園での焼き芋大会や高島平緑地でのみんなのファームづくりなどのイベント開催などにより、みどりに関心を持てる機会を創出したい。

⇒事務局 収穫の写真など、複数枚盛り込んで、魅力ある計画にしたい。

○委員 159ページから始まる用語解説について、その案内を目立つように目次に載せてほしい。

⇒事務局 参考資料1の7ページ、第1章「本計画の構成と読み方」で、用語解説への案内の配置を修正するとともに、補足説明を加える。

○委員 計画完成後、区民や団体に情報が届くよう、周知に力を入れてほしい。

⇒事務局 計画ができたことの周知だけではなく、具体的に区民にどのような良いことが起こるかが伝わるような周知を行う。

### **委員の感想・提案など**

○委員 区民のみどりに対する関心を高めるため、広報いたばしなどで、みどりの紹介を行う連載をしてはどうか。

○委員 みどりに関するイベントではなくとも、イベントの開催があれば、都度みどりのPRをしていけると良い。

○委員 計画を見て連絡したいと思った時のために、事業ごとにその担当課の連絡先を記載してほしい。

⇒事務局 計画全体の窓口をみどりと公園課としていることから、特に各事業への連絡先の記載を考えていない。

⇒委員長 最後のページまで見ずとも、連絡できるようわかりやすい位置に緑の公園課の連絡先があると良い。

○委員長 DXの活用については、単なる分析だけではなく、公園設備の故障など、区民が対応してほしいと思ったことを写真に撮って即時区に伝えられるシステムなど、区民と行政が連携した活用方法を検討してほしい。

以上